

会いに行ける宇都宮の古墳

栃木県立博物館 人文課 主任研究員 馬籠 和哉



笹塚古墳(南から)
中央の建物は県立宇都宮南高等学校

一環でこの古墳群内に道路が通ることになり、発掘調査が行われました。その結果、5世紀末頃につくられたことがわかり、古墳保護のために、道路は古墳の下を通るトンネルに計画変更になりました。

国や県・市町の指定文化財となっている有名な古墳であっても私有地内であることが多々あります。見学の際には、所在地の市町教育委員会に問い合わせるなど十分な下調べをして、現地では駐車やゴミの処理など節度を守って古墳に会いに行ってください。

土偶・山城・刀剣など、歴史にまつわる幅広いブームが、今、現地を訪れる人のウェーブとなつていきます。そこでおすすめるのが、気軽に会いに行ける遺跡である古墳です。都市部近郊にあつて見つけやすく、公園整備が進んでいるものから昔のままの姿をとどめる古墳まで数多くあります。また、初心者からベテランまで十分に好奇心を満たしてくれる存在でもあります。今回、数千ある栃木の古墳の中から、宇都宮を代表する2カ所を紹介します。

◆ 笹塚古墳(県指定史跡)

溝は田圃の畔道となつて形をよく留めています。この古墳がつくられた5世紀は、近畿地方で大仙陵古墳(全長約500m)など、大規模な前方後円墳が作られていました。この古墳の被葬者は、古墳の規模や形からも田川流域でもかなりの有力者であり、近畿地方の勢力とも関係の深かった人物であつたことでしょう。

周辺には、双子塚古墳など数基ありますが、公園整備はされていません。

◆ 塚山古墳群(県指定史跡)

西川田町の県総合運動公園入口近くにある古墳群で、前方後円墳の塚山古墳(全長100m)、帆立貝式の塚山西古墳(全長63m)と塚山南古墳(58m)の3基があります。昭和55(1980)年の「栃の葉国体」のメイン会場整備の一環でこの古墳群内に道路

この古墳からみつかった鹿の雄雌2頭ずつが描かれた円筒埴輪、古墳時代の鎧や水鳥を象った形象埴輪などは栃木県立博物館で展示中です。また、塚山古墳愛護会による除草作業が定期的に行われ、見学しやすくなっています。また、この古墳群の北側には、かつて数基の円墳があり、射撃場内古墳と呼ばれていましたが、総合運動公園の駐車場となり現存していません。



塚山古墳群(南から)
道路が古墳の下をくぐる